

2024年度事業計画書（案）

2024.5.31

おもしろ科学たんけん工房

はじめに

おもしろ科学たんけん工房の創設から20有余年、会員各位の意識の高さと活発な活動により、世間の評価はかなり高い。一方、たんけん工房を取り巻く情勢は、少子化・高学年の多忙化、会員の意識の多様化と高齢化など、大きく変化してきたが、これらの変化に着実に対応するため、会員の持つ知恵と経験を生かして、さらなる工夫と努力を続ける。

1. 基本方針

- ・たんけん工房への各方面からの期待に沿うよう、これまでも増してたんけん工房の活動を活発化させ、地域社会の発展並びに子どもたちの科学への興味の増進に寄与していく。
- ・新たな代表理事のもと、運営体制の見直しを進め、理事・会員の協調的な運営により、子どもたちとのより積極的な交流を図る仕組みづくりを進める。
- ・ボランティアスタッフの多様な生きがいを大切に、モチベーションを高めるための、新たな活動の仕方の検討とその具体化を進めていく。

2. 重点施策

- ・「手軽に行けるところ、あまねく体験塾を」のため、小規模体験塾の実現と、実施会場の拡大を図る。
- ・体験塾への参加者を増やすための諸施策を案出し、実施する。
- ・たんけん工房の活動の更なる周知を図り、たんけん工房への支援の輪を広げる。
- ・会員の思いの変化に対応した活動方法を模索し、より楽しい工房活動を目指す。

3. 事業施策

① おもしろ科学体験塾

たんけん工房の主事業として、テーマ数、質・内容、会場数、参加者等の更なる向上を目指す。

- ・今年度は、川崎開催も実現し、開催講座は200回超を計画する。
- ・工房の目的の一つである家庭での会話の実現を図るため、参加者の幅を広げ、一部会場で実施している、「小3親子ペア」、「参観者班」を全地区で実現する。
- ・また参観の保護者にも実験や準備に積極的に参加してもらい、保護者の参画意識を高める
- ・「手軽に行けるところ、あまねく体験塾を」を実現するため、昨年度より実施している、地区センター等から希望のある「出前体験塾」を更に積極的に引き受ける。
- ・これらを実現するために、新規テーマの開発、主任の増員を実現する手段を模索する。

② 低学年塾

- ・昨年度、キッズクラブ等の実施団体とのコラボで実現。テーマ・内容を、さらに充実させる。
- ・さらに、数団体から声がかかっているが、おもしろ科学体験塾の拡充に、まずは力を注ぎたい。

③ 出前塾・イベント出展

- ・たんけん工房の活動が、地域にも広く評価され、各種の団体から声がかかっており、地域貢献のために、積極的にかつ余裕のある対応を図っていく。
- ・できるだけ、地域の方々にも、スタッフとして参加するよう、声掛けをする。

通常総会第3号議案

④ 学校支援

- ・土曜特別授業、総合の時間、科学クラブ、PTA 主催等からの依頼に対しては、積極的に引き受けていきたい。
- ・現在受けている、科学クラブ支援等は、内容をさらに充実させるなど、児童の満足度向上に努める。
- ・チラシ配布時など学校訪問の折、極力先生方との会話の機会を作り、リレーションシップづくりに努める。

⑤ 特別教室

藤沢市立中学校生徒を対象にした特別クラス「中学生のための飛行機教室」は、各学校の希望者を1つの学校に集めて実施しているが、従来の会場校が次回開催にやや難色を示しているため、次回はいくつかの学校に出前する分散型になるかもしれない。

⑥ 新規展開

- ・川崎市への展開は準備が進みつつあり、今後も積極的に展開してゆく
- ・藤沢周辺の茅ヶ崎、海老名、大和へへの展開として、出前塾の積極的受け入れや、体験活動スタッフ養成講座への募集活動を実施する。これにより同地区の会員の増加や、体験塾の拡大を目指す。

⑦ 科学体験活動体験講座

おおむね従来実施して来た内容で年間を通じ3回実施する方針で進める。

- ・ 藤沢地区計画 1回（定員15名）
- ・ 横浜地区計画 【前期】定員30名 【後期】定員30名

⑧ 新たなアプローチ

たんけん工房活動の更なる質的向上を図るうえで、新たな活動領域を模索していく。

- ・ 中学生や高校生を対象とした科学塾の可能性を、引き続き模索していく。
- ・ 次世代への動機づけのために、保護者塾やシニア塾など、「大人の体験塾」の具体化を検討する。
- ・ 神奈川県外での体験塾実施の可能性を探る。
- ・ 新たな活動領域拡大について検討する。

4. 運営と経営

① 財政 賛助会員

体験塾参加者数の減少などの要因が重なって、赤字基調になっているが、脱却を図るべく、諸施策を実現していく。

- ・ 上記体験塾の拡充により、参加者増を図る。
- ・ 材料費価格の変化に対応して、「体験塾の各テーマの価値」も見計らいながら、その都度参加費の見直しを引き続き検討する。
- ・ 活動内容の発信を充実させ、たんけん工房への支援の輪を広げる。
- ・ 工房活動内容を、「無理」「無駄」の観点から吟味していく。

通常総会第3号議案

② 会員間の啓蒙

自分なりに、それもやってみようという雰囲気づくり、環境づくりを進める。

- ・会員間の交流を活発にし、お互いに知識や経験を積み重ね、啓蒙を図っていく。
- ・そのために、全体交流会、アイテム交換会、会員向け工具の使い方・部品の作り方教室、体験塾体験会、科学おもちゃコンペ、見学会などを引き続き企画しその充実を図る。
- ・入会者の高齢化により、入会時から各自の経験をできるだけ早く生かせるような取り組みを行う。例として、お互いの得意な分野・やりたいこと、夢を話せる場作りをする。

③ 主任育成：

- ・子どもたちに体験塾を身近に感じてもらうためには、会場数、テーマ数の拡充を図る必要がある。
- ・上記の達成にはより多くの主任が必要になる。主任育成を活発に行う必要がある
- ・素質も、意思もあるが、諸般の事情により主任を受けられないという課題の解決に取り組む。
- ・主任の負荷軽減のため、各グループ内で主任の役割分担、準備作業の応援・分散などを進めて行く。
- ・新テーマの発掘をどのようにするか、組織的にも議論していく。

④ 情報関連

- ・体験塾募集方法の強化検討

現在、募集手段は学校へのチラシ配布をメインに行っているが、学校側の負担感などから難しくなることも考えられる。

一部で実施している、メール募集から一歩進んで、QRコードその他の活用方法等も検討・試行したい。

- ・たんけん工房保有情報のセキュリティ向上、喪失のリスク回避、利用の利便性の向上のため、保管の手段と管理の仕組みづくりを行い、実現させる。

⑤ 広報

たんけん工房の活動内容に共感してもらい、協賛、協力の輪を広げる。

- ・おもしろ科学は有意義なことをしているのに、広報活動が弱いと言われる。広報班を設け広報活動の強化を図る。
- ・HP、たんけん通信（内部向け、外部向け）、情報発信の新たな手段の検討と具体化を図る。

⑥ 教育委員会などの後援

教育委員会の認可は社会的信用が大きい。

- ・2024年度も体験塾135回、前期後期研修について、横浜市教育委員会の後援認可を得た。
- ・2024年度の科学体験塾は全体延べ190回実施し、内135会場分の後援を申請した。
- ・藤沢地区も全体体験塾と養成研修に藤沢市教育委員会の後援を受けている。
- ・横浜の研修は前期「よこはまユース」、後期「よこはまユース」「コミュニティカレッジ」の協賛で行う。

（類似団体と話し合う中で、養成研修をやっているのは稀なようで工房の活動の特徴と言える）

⑦ 組織

新体制の下、皆で仕事を分担することにより持続的継承が可能な組織運営を目指す。

以上